

施設見学会

今回の施設見学会は、平成 23 年度に開催された仙台大会での視察見学会と比較して頂き、復興の具合を実感出来るようにとの思いもあり、以下の要領での 3 コースを考えております。

開催日:9 月 21 日(土)

申込方法:研究発表会専用ホームページからお申込みください。

申込締切:8 月 19 日(月)

注意点

- ・同日のセッションプログラムを十分ご確認の上、お申込み下さい。
- ・参加者のご都合によりキャンセルされる場合は、参加費は返金いたしません。
ただし、事前申込み入金後に、参加者の発表日時との重複により参加困難となった場合のみ返金いたします。(入金前であればマイページより変更が可能です。)
- ・第 1、第 2、第 3 コースの集合場所は「**東北大学百周年記念会館川内萩ホール**」です。
全行程を貸切バスで移動します。
- ・道路状況等によっては、解散時間が遅れる場合もありますので、ご了承ください。
- ・傘等の雨具及びお飲み物等は必要に応じて各自ご持参ください。
- ・全コースとも昼食を準備しておりませんので、昼食は各自でお済ませください。
- ・貸切バスは搭乗者保険に加入しておりますが、車外のケガには対応しておりません。

※ 開催期間中に緊急連絡事項がある場合は、受付横にて掲示、案内いたしますので、ご確認ください。

内 容	定 員	参加費
<p>第 1 コース 【(変更) 南三陸地区被災地復興見学コース】</p> <p>8:50 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 集合</p> <p>9:00 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 出発 (バス移動)</p> <p>11:00～12:10 アミタ株式会社南三陸 BIO 施設 見学 (バス移動)</p> <p>12:30～15:00 南三陸町さんさん商店街他(昼食・見学) (語り部ガイドによる被災地案内・バス移動)</p> <p>16:40 頃 JR 仙台駅 解散(希望者)</p> <p>17:00 頃 東北大学川内キャンパス 解散</p>	26 名	6,000 円
<p>第 2 コース 【仙台市沿岸地区被災地復興見学コース】</p> <p>12:50 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 集合</p> <p>13:00 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 出発 (バス移動)</p> <p>13:40～14:30 南蒲生浄化センター 見学 (バス移動)</p> <p>14:45～15:35 震災遺構 荒浜小学校 見学 (バス移動)</p> <p>16:00 頃 JR 仙台駅 解散(希望者)</p> <p>16:20 頃 東北大学川内キャンパス 解散</p>	40 名	3,000 円
<p>第 3 コース 【仙台近郊先進処理施設見学コース】</p> <p>12:45 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 集合</p> <p>13:00 東北大学百周年記念会館川内萩ホール 出発 (バス移動)</p> <p>13:30～14:10 J-NEX バイオプラント 見学 (バス移動)</p> <p>14:50～15:40 仙台城址 見学</p> <p>17:40 頃 東北大学川内キャンパス 解散(希望者)</p> <p>18:20 頃 JR 仙台駅 解散</p>	40 名	3,000 円

第1コース 【(変更) 南三陸地区被災地復興見学コース】

＜南三陸町の一般廃棄物を資源化する包括的資源循環モデルの要＞

アミタは、2014年7月に宮城県南三陸町と取り交わした「バイオガス事業実施計画書」の実施協定に基づき、2015年10月に資源・エネルギーの地域内循環を担う拠点としてバイオガス施設「南三陸 BIO」を開所、官民連携（PPP）スキームでのバイオガス事業を本格的に開始しました。この取り組みは平成27年度宮城県再生可能エネルギー等・省エネルギー大賞 再生可能エネルギー等導入促進部門の優秀賞を受賞。また、NHK ドキュメント番組「あの日わたしは」でも特集されました。町内外からの視察も多数受け入れています。

＜南三陸 BIO の概要＞

南三陸町の住宅や店舗から排出される生ごみやし尿汚泥など、有機系廃棄物を発酵処理し、バイオガスと液体肥料（以下液肥）を生成します。バイオガスは、発電に用いるなど施設内で利用し、液肥は肥料として農地に散布します。この事業により、これまで廃棄物として処理されていた地域生ごみの資源循環が大幅に促進されています。

＜施設名称「南三陸 BIO（ビオ）」の由来＞

BIO（ビオ）は、BIO（バイオ）と Best Integrated Operation（最も統合された活動）の略の2つの意味から命名されています。

＜施設概要＞

敷地面積：5,945.06（平方メートル）、建築物面積：954.24（平方メートル）

処理能力：10.5t/日、発電量：21.9万kwh/年、液肥生産量：4,500t/年

＜事業主体 アミタ株式会社＞

稼働開始日：2015年10月19日、製品：液肥

事業内容：食品残さなどの廃棄物をメタン発酵し、電気・熱エネルギー化、メタン発酵後の副産物（液体）を肥料化

許可内容：許可の種類：一般廃棄物処理業（処分）、受入品目：生ごみ

＜所在地＞

〒986-0778 宮城県本吉郡南三陸町志津川字下保呂毛14番地1

TEL：0226-47-4055、FAX：0226-47-4056



第2コース 【仙台市沿岸地区被災地復興見学コース】

＜南蒲生浄化センター＞

仙台市の下水の約7割を処理してきた南蒲生浄化センター。震災の10mを超える津波により、構造物の破損や機械・電気設備の水没、流出、送電鉄塔の倒壊などの壊滅的な被害を受け、処理機能が停止しました。市民生活に不可欠なインフラであるため、センター内のがれき処理やライフラインの復旧と並行して早期復旧に向けた方法の検討を進め、平成23年9月には、従前の機能回復にとどまらない復旧方針を決定。約1年の設計期間を経て、通常なら10年を要するとされた施工期間をほぼ3年に短縮させることに成功しました。最初沈殿池、最終沈殿池を2階層化、反応タンクを深槽式としてコンパクトにするとともに、津波高T.P.+10.4mに対応するように施設をかさ上げし、建屋に耐水扉を設置することで、東日本

大震災クラスの津波に耐えうる施設となりました。また、電源を喪失してもポンプを使用せず、最低限の下水処理を行い放流できるルートを確認するとともに、太陽光発電設備も設置。使用電力の抑制に役立つ小水力発電も新たに設置しました。「仙台防災枠組」には、災害の発生後の復旧段階において、災害発生以前と同じ状態に戻すのではなく、次の災害発生に備えてより良い状態にするという考え方、「より良い復興（Build Back Better）」が取り入れられました。南蒲生浄化センターは、まさにその考え方を体現化した施設となりました。

<南蒲生浄化センター所在地>

〒983-0002 仙台市宮城野区蒲生字八郎兵エ谷地第二

TEL : 022-258-1095、FAX : 022-258-6889



津波にのまれる南蒲生浄化センター



復旧後の南蒲生浄化センター

第3コース 【仙台近郊先進処理施設見学コース】

<J-NEX バイオプラント>

食品残さなど有機性の廃棄物を、電気・ガス・たい肥等にリサイクルする施設です。リサイクルの過程で発生したメタンガスを燃料に発電を行い、発生した電気は場内で利用するほか、余剰分は外部へ供給しています。同時に、たい肥は農家などに販売し、野菜を育て、リサイクルループを実現します。化石燃料を燃焼させる火力発電と異なり、元々空気中にあった炭素源を動植物が取り込んだものをメタン化、発電のため燃焼させ、二酸化炭素として大気に戻す、つまり大気中の二酸化炭素が増加しない『カーボンニュートラル』という特徴も持っています。

<J-NEX バイオプラント 所在地>

〒981-3206 仙台市泉区明通 2-80

TEL : 022-779-5515、FAX : 022-779-5516

